

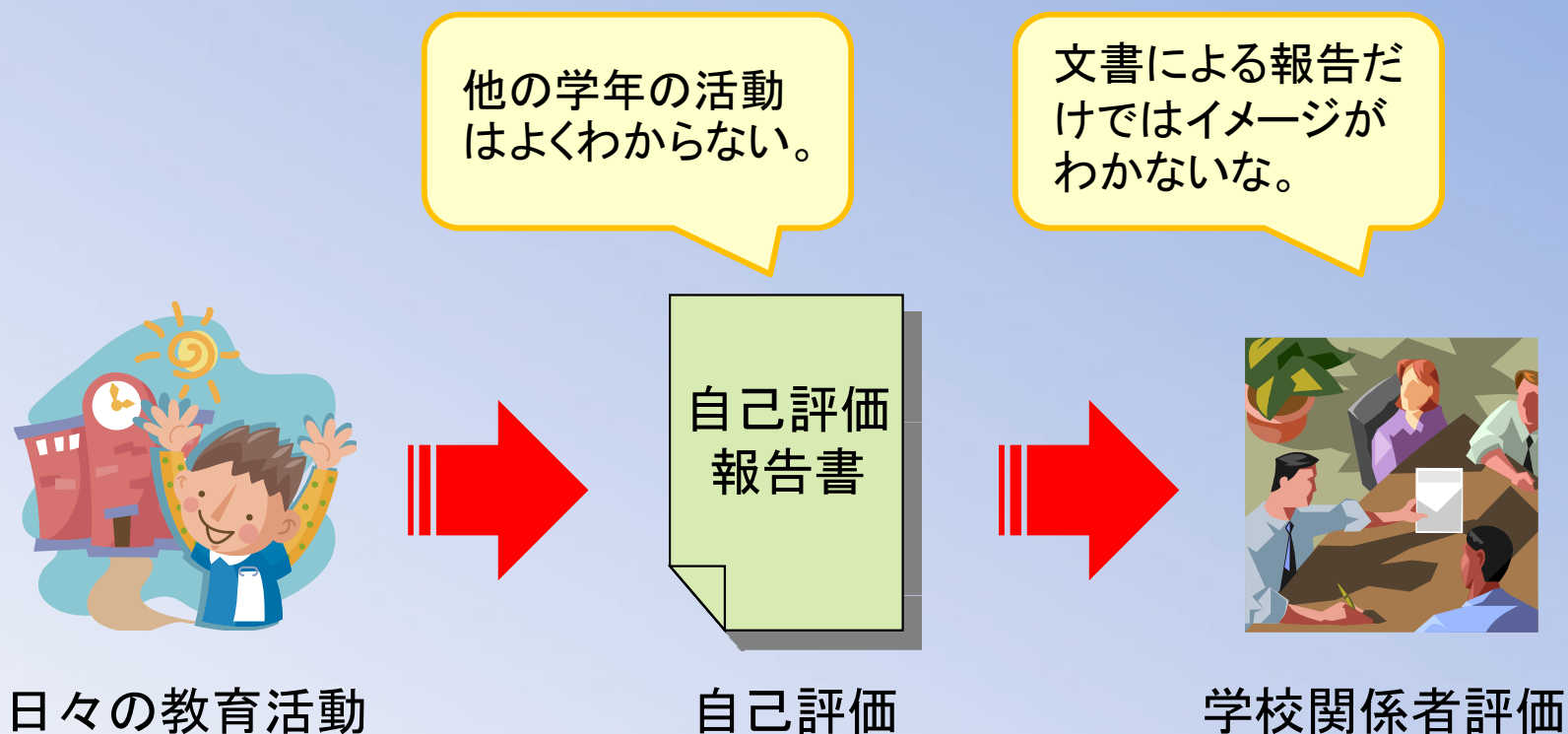
学校評価を充実させる学校CMSとその活用

How to make the most of Content Management System in School Evaluation

下村 聡* 小西克哉** 堀田敦士** 鷲尾健仁*** 豊福晋平****
Satoshi Shimomura* Katsuya Konishi** Atsushi Hotta** Takehito Washio*** Shimpei Toyofuku****
エデュコム教育システム研究所* プラネクス** 新潟市立亀田東小学校*** 国際大学****
Educom Education System Research Institute*
Planexus Inc.**
Kameda-higashi Elementary School***
Center for Global Communications, International University of Japan****

学校評価を充実させる学校CMSとその活用

＜あらまし＞ 学校評価の実施にあたっては、学校の日常活動に対する理解が評価者や関係者と十分に共有されている必要があるが、実際には、評価者・関係者にとって学校の日常活動はよくわからないまま評価がなされていることが少なくない。本研究では、学校CMSを活用して学校の日常的な情報を蓄積して自己評価や外部アンケートを行うことにより、学校評価に学校CMSを活用する有効性についての検討を行った。



1. 研究の概要

学校ウェブサイトの作成・管理にCMSの活用が有効であること、ならびに、学校ウェブサイトを作成・管理するのに必要なCMS(以下、「学校CMS」)の機能については、学校サイトに適したハイブリッド型CMSの開発(豊福ほか, 2008)において論ぜられている。

学校サイトに適したハイブリッド型 CMS の開発 Developing Hybrid Type Content Management System Suitable for School Websites

豊福 晋平* 柳瀬 貴夫** 小西 京哉*** 堀田 教士*** 林 祐久****
Shimpei Toyofuku* Takao Yanae** Katsuya Konishi*** Atsushi Hotta*** Yoshitaka Hayashi****

国際大学* エドウェル** エデュコム東京*** 世田谷区教育委員会****
Center for Global Communications, International University of Japan*
Eduwel Corporation** Edumcom Tokyo Inc.***
Setagaya Board of Education****

＜あらまし＞ ウェブサイトの円滑な運用には、Blog を含む CMS(Content Management System)が有効であることは既に広く知られている。しかし、一般的な CMS の表現形式は、必ずしも学校用途に最適化されていないため、実際には、維持管理やインタフェースに特有の問題を生じさせている。

本研究ではこれらの課題に鑑み、記事管理の単純さ、ナビゲーション、およびサイトデザインの個性化を実現するため、静的・動的コンテンツを柔軟に組み合わせた可能なハイブリッド型 CMS の開発・実験を行った。本稿ではその意義と期待される効果について論じるものである。

＜キーワード＞ 教育情報 システム開発 コミュニケーション 学校ウェブサイト CMS

1. 研究の概要

本研究は平成 19 年度総務省・地域 ICT 利用モデル構築事業の採択により、世田谷区が構築する地域教育情報基盤の一環として行うものである。世田谷区の地域教育情報基盤構築においては、学校の社会的価値と学校に開く地域活力とを可視化し、区民の参画を促すことを目的とし、次の 3 点から展開を行っている。

①学校個性を活かした効率的学校広報システムの検討・開発

学校個性を活かしたコンテンツ制作、効率的編集・情報管理が可能な新しい学校 CMS モデルを検討し、開発を行う(本論文各部分)。

②学校広報システムを用いた地域連携活動の可視化

③学校広報・地域連携活動の活性化

2. CMS について

CMS はウェブサイトの構築・運用管理に用いられるシステムアプリケーションである。CMS は原則として大半の管理運用作業をウェブ画面上の簡単な手続きで行えるので、技術的知識がなくても文書と写真等素材があ

れば運用可能であり、また、デザインやレイアウトの要素をテンプレート化し内容の要素と切り離して管理することで、大幅に運用の負担を軽減する効果がある。

企業・行政サイトのほか、自治体教育委員会が管理する各学校ホームページについても適用例が増加しており、円滑な運用のための省力化効果は既に広く知られるところである。

CMS は用途に応じて多様なシステムが存在しており、XOOPS 等の汎用 CMS のほか、Blog(Weblog)、Wiki、SNS、授業教材構築用に特化した Moodle などがある。

学校ウェブサイトの運用管理を前提とした教育用 CMS についても、既に複数の製品が存在している。

一般的に教育用とは、学校組織で運用するために、複数のログイン ID を管理し、学校管理側による投稿記事の承認・差し戻し機能等を備えていることを指す。

3. CMS の普及と導入効果

CMS 以前のシステムでは、ページ作成に際して HTML 記述や画像等の素材加工、あるいはサーバへのアップロードといった操作

学校評価を前提とした学校ホームページの情報提供方策 The reporting policy of the school homepage assuming the school evaluation

中島 遼* 豊福 晋平**
Susumu Nakashima* Shimpei Toyofuku**

伊方里市立黒川小学校* 国際大学**
Insari municipal institution Kurogawa elementary school*
International University of Japan**

＜あらまし＞ 関係者の学校評価を実施する上では、評価精度を向上させるため、分かりやすい情報提供が求められている。本研究では、学校ホームページを用いて学校評価のためのエビデンス情報を提供するため、評価項目に関連した活動記録情報をリンクさせたインタフェースを作成・提供した。

＜キーワード＞ 学校教育 学校評価 情報提供 学校ホームページ ブログ 携帯サイト

1. 研究の背景

本研究では、学校ホームページを用いて学校評価のためのエビデンス情報を提供するため、評価項目に関連する活動記録情報をリンクさせたインタフェースを作成・提供した。

本研究の背景理由は次の 3 点である。

第 1 点目として、文部科学省(2007)は平成 19 年 6 月の学校教育法改正において、学校教育法 43 条に明確な学校情報の公開を規定した。また、平成 20 年 1 月に改定された学校評価ガイドライン(文部科学省 2008)においても、積極的な情報提供の項目で、ホームページを活用した情報提供が示されている。

第 2 点目として、縦横断による情報提供は、情報提供量が限られていることを除けば、保護者のみをターゲットとした場合には有効手段といえる。しかし、社会的価値観が多様化したことや学校が地域社会において果たす役割を考慮すれば、ホームページによる情報提供が有効となる。

第 3 点目として、関係者の学校評価を実施する上では、評価精度を向上させるため、分かりやすい情報提供が求められている。しかしながら、現状では評価を前提とした情報提供および情報提示の効果的な方法は

十分検討されているとはいえない。

特に 2 点目、3 点目についていえば、学校ホームページによる日常的な情報提供は単に盛んになりつつあるが、膨大な記事や画像を再編集・再利用する機能は一部の Blog で実装されたばかりであり(豊福ほか 2008)、これを学校評価のエビデンス資料として活用したケースは見られない。

2. 研究の課題

2.1. インタフェースの作成

そこで、本校では「hyper 学校評価」という html ページを作成し、今年度の本校の学校評価項目とそれぞれの学校情報とをリンクさせている。保護者・地域の皆様および学校関係者評価委員に、学校評価をおこなう際に参考にしてもらうことで、評価の精度を高めることをねらいとしている。

また、ブログのコメントや問い合わせでも、随時意見・感想を受け付けるようにして、形成的な評価および評価の改善に対応できるようにしている。

項目とリンクしている活動記録情報は次のとおりである。

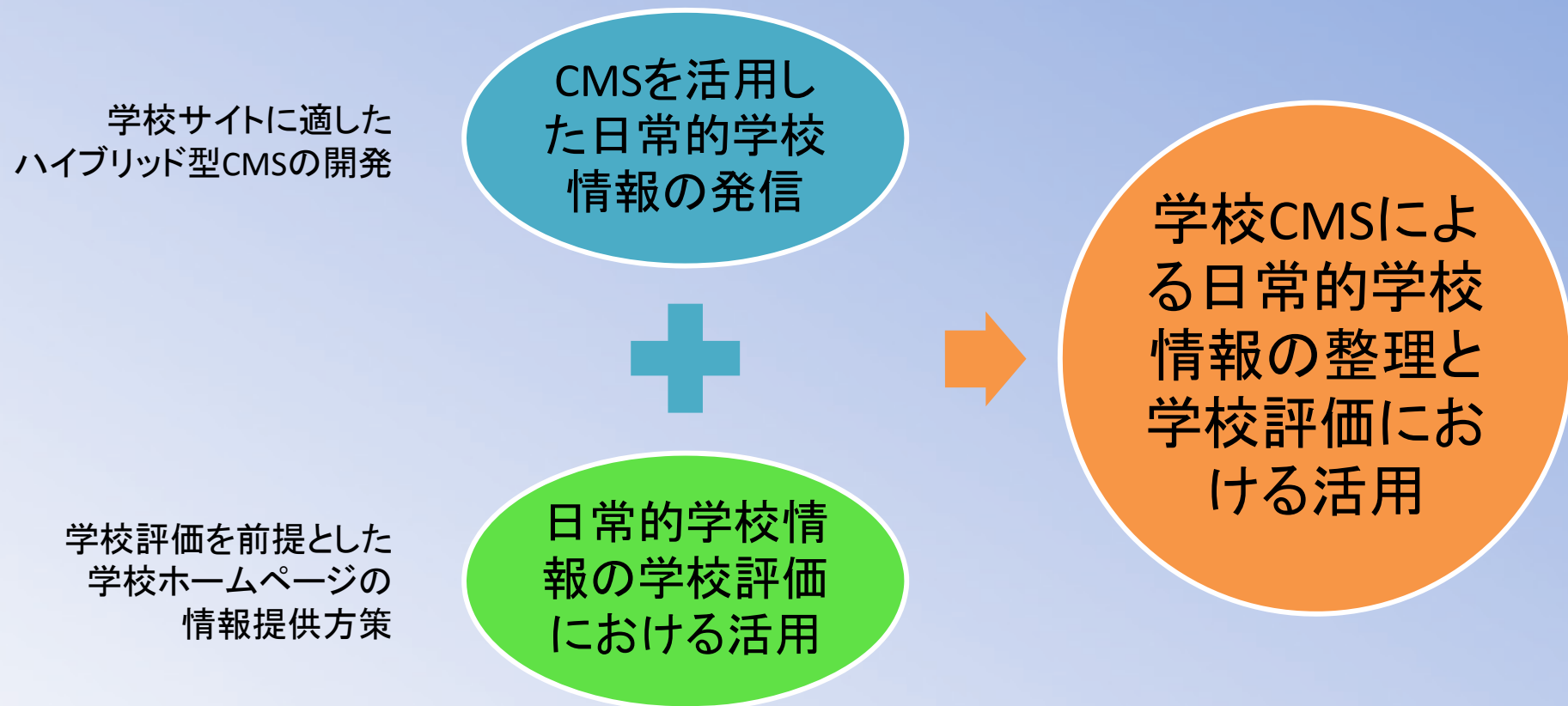
①学校経営方針

- 学校紹介 MOVIE
- 笑顔と感動のスライドショー
- キャッチフレーズ
- 夢づくり

1. 研究の概要

また、学校評価を前提とした学校ホームページの情報提供方策(中嶋ほか, 2009)では、学校ホームページを学校評価に積極的に活用していくための方策が紹介されている。

本研究では、これらを踏まえて、学校CMSを学校評価に活用することを通じて、その有効性を明らかにすることを目的とする。



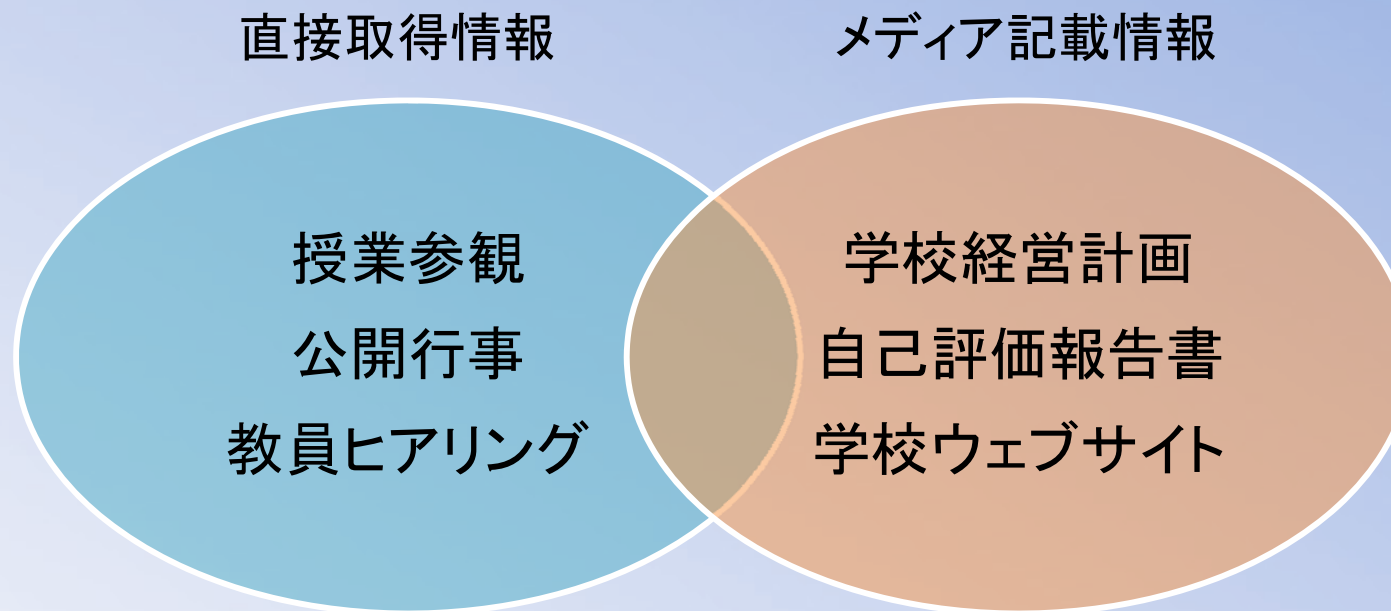
2. 学校評価とその根拠情報

学校評価における根拠情報とは、学校評価を実施するにあたり、必要となると考えられるあらゆる情報を指す。そして根拠情報はその内容により、学校の教育目標や評価計画、教育課程等により構成される学校の基本的な情報と、日々の授業や特別活動、行事等の様子など学校の日常的な情報（以下、「日常的学校情報」とに分類される。



2. 学校評価とその根拠情報

また、学校評価を行う際、（自己評価、学校関係者評価、第三者評価のいずれに場合においても、）評価者は、これらの根拠情報を、学校を訪問して実際にその活動を試みたり、関係者に対してヒアリングを行ったりすることにより、直接、収集する場合と、学校が作成した学校経営計画や外部アンケートの結果のまとめや学校ウェブサイトに記載されている情報を読むなど予め印刷物や学校ウェブサイト等を通じて入手する場合とがある。



3. 学校評価に必要な日常的学校情報の要件

本研究では、前述の学校評価に必要な根拠情報のうち、最も蓄積や整理が困難であると考えられる日常的学校情報を、学校CMSを活用して、的確かつ効率的に収集、整理するしくみの構築を試みた。日常的学校情報が学校関係者評価に活用されることを想定して、それらの情報は、どのような要件満たす必要があるかを整理すると以下ようになる。

(1) 目標・計画との関連が明確である(関連性)

(2) 短い時間で概要を理解できる(要約性)

(3) 具体的な教育活動の様子がわかる(具体性)

(4) 評価に必要な主要な活動は十分に網羅されている(網羅性)

(5) 必要な情報がすぐに見つけられる(検索性)

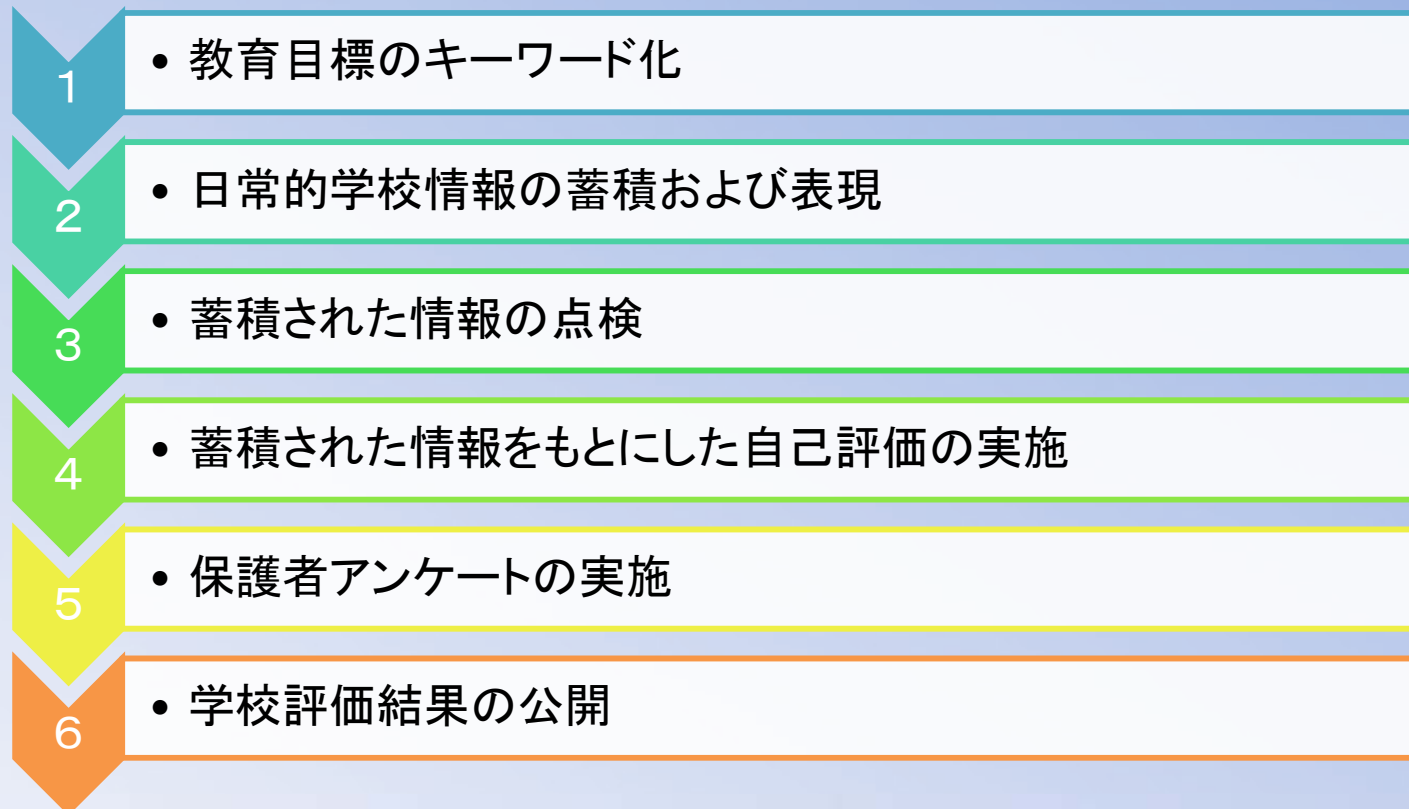
(6) 必要なときに必要な人が閲覧できる(閲覧性)

(7) 個人情報の管理・保護等が徹底している(安全性)

(8) 時間をかけず簡単に資料作成できる(経済性)

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

新潟市立亀田東小学校(以下、「亀田東小」)では、前述の要件を満たす日常的学校情報(記事)を効率的に収集、整理することを念頭に、①誰でも簡単に記事を作成し掲載することができる、②作成する記事はカテゴリーやキーワードをつけることによって自動的に整理・分類できる、③一度、掲載した記事をカテゴリーやキーワードにより再抽出して、再構成したページを作成できる等の機能を有する学校CMSを以下の手順で学校評価に活用した。



4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

1

• 教育目標のキーワード化

まずは、後で学校評価(自己評価)を実施する際、日常的学校情報(記事)を分類・整理するためのキーワードを学校の教育目標に従って設定をした。亀田東小では、具体的に、「学力向上」、「体力向上」、「豊かな心」などの87のキーワードを設定した。

7 キーワード

☐ 学校運営	☐ 校長	☐ 講話	☐ 1年	☐ 2年	☐ 3年	☐ 4年	☐ 5年
☐ 6年	☐ 全校	☐ 委員会	☐ 大空だより	☐ 大空児童会	☐ 1年生ウイーク		
☐ 運動会ウイーク	☐ 友達ふやそうウイーク	☐ アイディアいっぱいウイーク	☐ 六送会ウイーク				
☐ クラブ活動	☐ 異学年	☐ 縦割り					
-----				☐ 食育	☐ 給食		
☐ 献立	☐ 給食だより	☐ 職員研修	☐ たけのこNEWS	☐ 授業研究	☐ 研推だより		
☐ 成果と課題	☐ 英語活動	☐ 生活指導	☐ 学校評価	☐ 評価基準	☐ 中間評価		
☐ 年度末評価	☐ 外部評価	☐ 学力向上	☐ 体力向上	☐ 豊かな心	☐ 職員		
☐ 校内読書週間	☐ 基本情報	☐ 教育計画・実施計画					
-----				☐ 学校だより	☐ 保健だより		
☐ 保健室	☐ 保健室運営	☐ 保健室ニュース					
-----				☐ 保護者	☐ PTA		
☐ PTAだより	☐ 専門部	☐ 学年部	☐ 学習参観	☐ アンケート	☐ 総合学習		
-----				☐ ブックラビット	☐ 図書室		
☐ 図書館だより	☐ 新刊図書案内	☐ 絵本	☐ 物語	☐ 今日の匠	☐ 修学旅行		
☐ 林間学校	☐ 重要度:高	☐ 重要度:中	☐ 重要度:低	☐ トップページ			

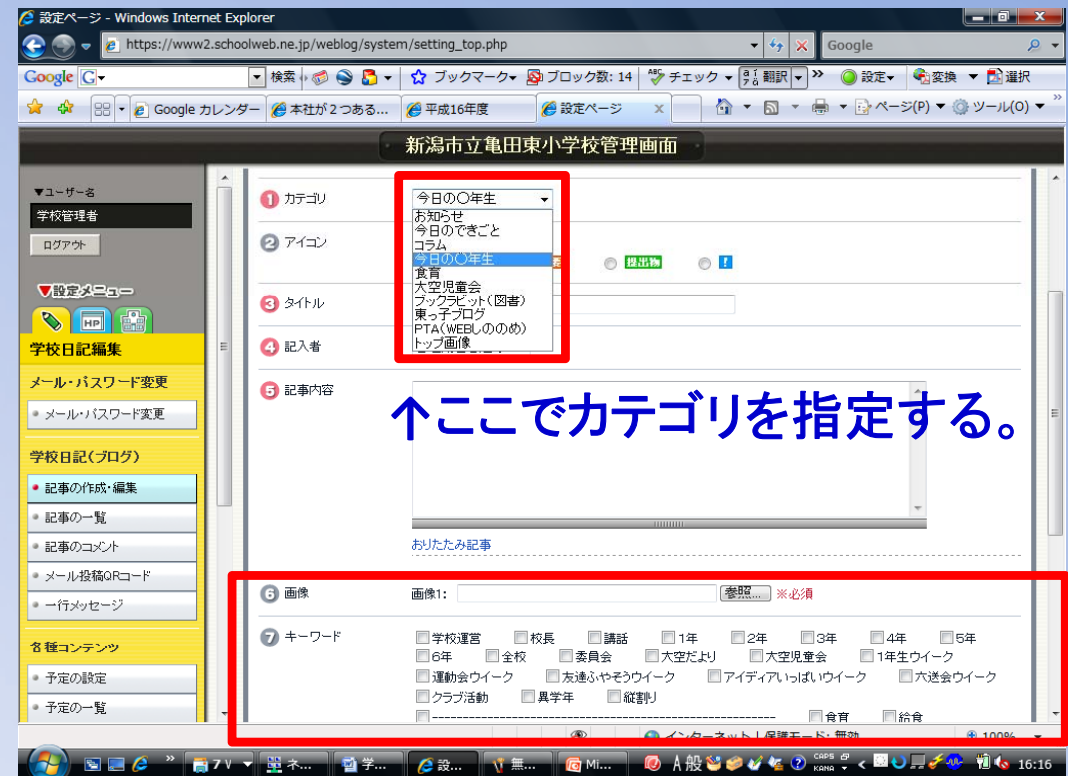
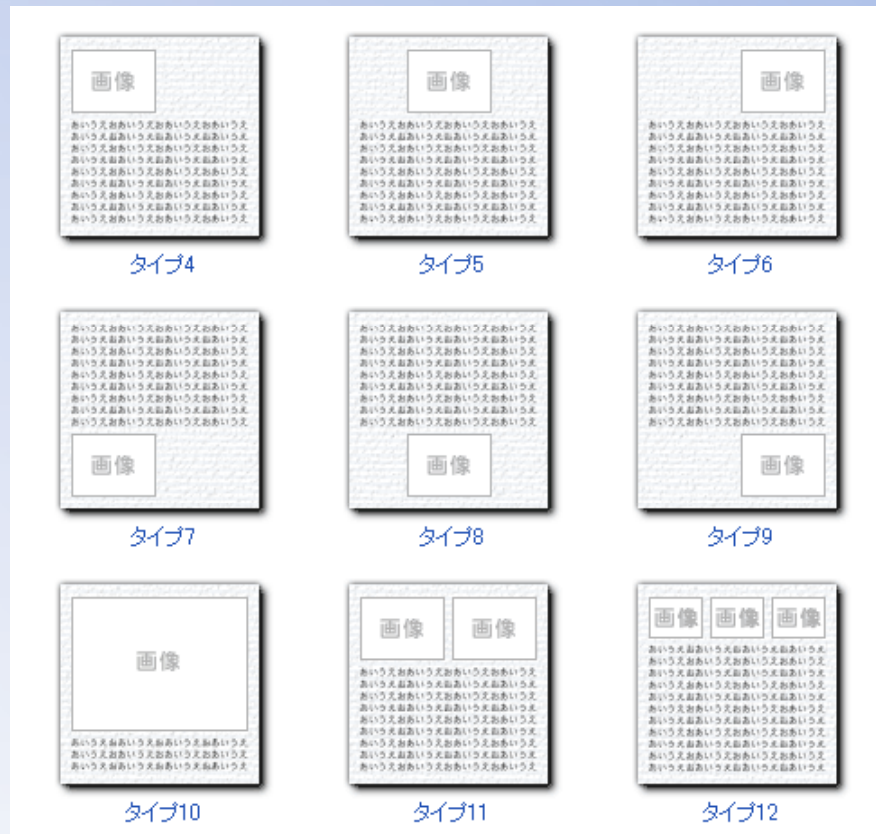
学校評価を意識して亀田東小学校で設定したキーワード

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

学校CMSを用いた記事の作成

①記事のレイアウトを選ぶ

②画像を指定して文章を書き込む。



4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

2

- 日常的学校情報の蓄積および表現

亀田東小においては、学校の様子を保護者や学校関係者と共有するために、ほとんどすべての教職員のほか、保護者や児童(委員会活動)らによって、日々の活動が学校ウェブサイトで発信されている。

発信にあたっては、予め記事の内容や作成者別に整理されたカテゴリに対して記事の投稿を行うほか、それぞれの記事に対してキーワードをつけた。キーワードは、記事を作成する際に予め設定されているキーワードがリスト表示され、個々のキーワードの前にあるチェックボックスをクリックするだけで簡単につけることができる。キーワードは1つの記事に対して複数つけることもでき、一度、設定したキーワードは後から変更することもできる。

亀田東小学校の
学校ウェブサイトの
カテゴリ

☒ カテゴリ
▶ TOP
■ お知らせ
■ 今日のできごと
■ コラム
■ 今日の○年生
■ 食育
■ 大空児童会
■ ブックラビット(図書)
■ 東っ子ブログ
■ PTA(WEBしのため)
■ トップ画像

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

3

蓄積された情報の点検

CMS運用者は、いつでも、どのキーワードに対する記事が何件ぐらい投稿されているかを確認できる。これにより、目標や計画に対して、どのような活動に対する情報発信が不足しているのかを常時、確認できる(情報発信不足の原因としては、活動は行われているが記事がない場合と、活動自体が行われていない場合とがある)。

記事の一覧表示

カテゴリ	タイトル	作成者	状態	作成日時	更新日時▼
東っ子ブログ	 ベルー豆知識	レンジャー6年	公開中	2009-10-21 07:00:22	2009-10-21 15:38:01
東っ子ブログ	 10/21の出来事	レンジャー6年	公開中	2009-10-21 13:32:57	2009-10-21 15:32:15
お知らせ	 特集ページ公開のお知らせ	神田多恵子	公開中	2009-10-13 16:26:46	2009-10-21 15:30:17
東っ子ブログ	 10/21の〇年生	レンジャー6年	公開中	2009-10-21 13:24:17	2009-10-21 15:29:29
今日の〇年生	 学習発表会に向けて！	神田多恵子	公開中	2009-10-20 14:36:55	2009-10-21 13:09:01
今日の〇年生	 3くみのみんなー、げんきしていますか？	神田多恵子	公開中	2009-10-21 13:06:20	2009-10-21 13:06:20
食育	 さて、どれでしょう？	六間口	公開中	2009-10-16 17:44:57	2009-10-21 12:50:23
食育	 強いぞ！まいたけ	六間口	公開中	2009-10-16 17:42:21	2009-10-20 17:20:06
お知らせ	 芸術の秋	鷺尾健仁	公開中	2009-10-20 17:17:27	2009-10-20 17:19:58
東っ子ブログ	 10月20日 今日の〇年生	レンジャー6年	公開中	2009-10-20 17:05:18	2009-10-20 17:05:18
今日の〇年生	 総合学習「亀田の歴史こま話」～亀田綺編	鷺尾健仁	公開中	2009-10-20 16:44:00	2009-10-20 17:03:10
東っ子ブログ	 10/20の給食	レストラン6年	公開中	2009-10-20 16:55:55	2009-10-20 16:55:55

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

4

- 蓄積された情報をもとにした自己評価の実施

亀田東小においては、前述のような記事が年間約2000件投稿される。投稿された記事は学校が自己評価を実施するタイミングにおいて再度、学校評価の担当者とCMS担当者が整理をして、学校評価のまとめページを作成した。

具体的には、①教育目標と計画に基づき、報告書に盛り込むべき活動を絞り込み、②キーワードにより抽出された記事より、活動例として紹介すべき活動を選択し、③個々の活動の位置づけと成果を教育目標との対比のなかで文章化し、④それを学校評価のまとめページにて掲載をした。このとき、個々の記事に使用された写真は再活用され、本文は、まとめ用の文章に自由に書き換えることができる。

カテゴリ・キーワードによる 記事の一覧表示

学校日記記事アイテム選択

表示: アイコン ソート: 更新日時降順

カテゴリ: すべてのカテゴリ

キーワード: 3年

更新日: 指定なし

ページ 1/5 (85件) | 1 2 3 4 5 |

 図工 & 総合 (画像 1)	 図工 & 総合 (画像 2)	 今日の3年生 は... (画像 1)	 煙が! こげ たこげた! (画像)	 煙が! こげ たこげた! (画像)
 煙が! こげ たこげた! (画像)	 今日の3年生 (画像 1)	 見つめてみよう わたしたちのまち	 見つめてみよう わたしたちのまち	 見つめてみよう わたしたちのまち
 見つめてみよう わたしたちのまち	 見つめてみよう わたしたちのまち	 見つめてみよう わたしたちのまち	 見つめてみよう わたしたちのまち	 見つめてみよう わたしたちのまち

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施



5 記事(取り組みのようす)



再来年度から完全実施される「英語」。新潟市(旧亀田町)は、以前から国際理解教育に力を入れており、各校にALT(Assistant Language Teacherの略、外国語指導助手のことを指す)を配属、各学級で英語活動を実践してきました。本校では今年度より5、6年生で先行実施しています。私たち職員も、「英語ノート」を使って自信を持って子供たちの前に立てるよう月に1回以上の英語研修を積み重ねてきました。



「見通しをもち筋道立てて考える力を育てる指導の工夫」～かかわり合いを通して、考えを深めていく子供たちをめざして～という研究主題のもと本校は職員研修を行っています。全職員が算数を主とした授業公開を行い、研究主題に向かって研鑽を深めています。職員間で授業を参観し、協議会をもち、自らの授業改善に生かしています。6年3組において、全職員が参観する「授業研究」が行われました。算数「単位量当たりの大きさ」です。「自分の考えを確かめ、集団で考えを深めていくかかわり合いのもとせ方」について、「グループ討議の場」「全体発表による比較検討の場」の二つの場面を設定しました。授業後の協議会では、一人一人が自分の課題となっていたか、

完成した学校評価のページ

4 中国評価を受けた技長の働き方

- ・国語・算数における基礎学力は、「基礎学力の引き上げ」の実現により、顕微化して取り組んでいける状況は見られる。授業での継続的取り組みはもとより、今後は家庭学習の内容や指導方法についても、各学年・学年次・教科書について一貫して実施していく。また、単元の基礎力修得を促す、学習の基となる指導事項について、全体体制で取り組み事項を洗い出し、指導の徹底を図ることに重点を付ける。
- ・技術科については、授業研究活動とくに研修から立ち上げられ、成果や課題の明確化に示され、単元の共通理解が図られている。今後は、授業研究を計画的に進め、単元の授業力の向上に向け指導していく。
- ・国語算数が中心となって、児童が意欲に燃し環境づくり・準備を行っている中で、今後は意欲を高めたい。内容面の充実にも努力を伴っていく。

5 記事(取り組みのようす)



再来年度から完全実施される「英語」。新海市(旧龜田町)は、以前から国際理解教育に力を入れており、各校にALT(Assistant Language Teacher)の略、外国語指導助手のこを擁す。各校で英語活動を興熱してきまし、本校では今年度より、5、6年生で先行実施しています。私たち職員も「英語ノート」を使って自信を持って子供たちの前に立てようとする1国以上の英語研修を得てきました。

[illegible]

一人一人の授業研究の成果と課題や、老
HOT NEWS」によって、職員間で共通理解



一歳つづきプロより一時間目に英語を
など、)をして、行きたけとその場で書き
ながらでました。想像で、また今度
方たのめをよみました。まてて分が
がでる。ミウパは木の温度を上げ
けなでの沢の温度をもてあしする
のめてをえめした。特に半端では
は90分をめかしました。できるか

[illegible]

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

5

- 保護者アンケートの実施

教職員による教育活動のまとめとその結果の公表を行った段階で保護者アンケートを実施する。保護者アンケートにおいては、学校ウェブサイトにはアクセスできない保護者がいることを考慮し、学校評価のまとめページの要約を印刷物として作成しアンケート用紙と合わせて配布した。

アンケート時に保護者に配布した資料

平成 21 年度 学校評価計画（中間）

新潟市立高田東中学校

1 現状・課題

2 方針・取組

○国語力テストでは、どの学年も全学年平均を越えたポイント以上と上回っている。特に、4年、5年ではそのポイント以上と上回った。読書量も増え、全校での読書の取り組みが充実。

○各科目の基礎学力の定着を図ると、基礎学力をのりとした見直しも必要だと考える力の養成が課題。

★全職員が授業における課題を認識し、課題、異動以外でも、授業の学習意欲を高め、知識、技能を伸ばしながら、思考力・判断力・表現力を育成する取組を通じていく。

★家庭学習の定着を図ると、授業効果も上がる。

★学習習慣の定着、家庭学習の習慣化。

3 達成目標と進捗状況

達成目標	進捗状況	中間評価
①学習・読書・計算のテストで各学年の目標値を達成する児童が全体の 90%以上。	第1学期の結果、15学年中11学年が90%以上、15学年で70%以上。 できなかった理由、テストの対策のやり方自体に不慣れ、学習しなばいである。など。 ※学習内容→基礎力や達成感があったところを中心に読書習慣、基礎力の育成を図り、2・3学期の全学年テストに向けて取り組む。対策方法ややり方を確認して、反復練習をしていく。習熟させることとする。	◎
②国語・算数の学力テストの結果が、全学年で全学年平均を3ポイント以上回る。	15学年（1月末に実施予定）、市況中に実施。	未評価
③全校で読書に取り組む。学年に応じた目標値を達成する児童の割合が95%以上。	読書量の調査を見ると、昨年並りで若干低い数値であるが、今年末には十分達成可能な数値である。	市況中に評価
学習意欲	進捗状況	中間評価
①ドリルや練習問題を授業や家庭学習で継続的に取り組む。	読書や家庭学習に継続的に取り組んだ児童は77.8%、高学年では読書だけでなく、家庭学習にも取り組むようにしている。 ※学習内容→個人差があるため、さらに観察が必要だと判断して、	◎
②国語・算数のワークテストで85点以上を目標に取り組み。	国語・算数のワークテストの平均点は、各85・86点。学年及び異動や欠点によっては、落ち込んでいる部分もある。 ※学習内容→読書量が低かった児童や欠点を分析し、補完策を徹底させる。	◎
③授業進捗の遅れ等が、国語部で読書量の目標値を決めて取り組む。	遅1学期の授業進捗の遅れが少なく、休み時間にも本の読み慣らしを行い、読書に取り組んでいる。個人差が大きい。	◎
進捗状況	進捗状況	中間評価
①全職員が学びを促せる授業を実施し、授業研究を行う。	全職員授業公開の年数定めて公表。 大田は2つあり、11月に大田が行われる予定。	市況中に評価
②「おきずりづくりの年制り」に基づいて、学校全体で推進に取り組む。	「おきずりづくりの年制り」の推進を行い、全校推進で取り組んでいる。	A
③本の読みかきやおやすめの本を紹介し、読書の楽しさを味わえる。	読書週間では全学年読書がおすすめの本の紹介を行った。 ※学習内容→本の読みかきを積極的に取りよにする。	◎

4 校長の働きかけ

○国語・算数における基礎学力は、「基礎学力の牽引」の推進により、定着化して取り組んできている。授業での継続的な取組はもとより、今後は家庭学習の内容や取り組み方についても各学年ごと、指導するようにも働きかけていく。また、職員の手配調整もあわせて、学習の基となる読書量について、全校統制で取り組みを徹底していく。指導の徹底を図るようにも働きかける。

○校内研修については、授業研究後すぐに研修からたよりが報告される。研修や部活動の研修に準ずる。職員の高齢化が認められてきている。今後も、授業研究を計画的に続け、職員の授業力の向上に向け推進していく。

○読書習慣が中心となって、読書が読書に親しむ指導づくりを徹底させている。今後は読書量だけでなく、内容の充実にも働きかけていく。

5記事（活動のようす）



【教員研修】
再来年度から完全実施される「英語」。新潟市（旧亀田町）は、以前から国際理解教育に力を入れており、各校にAL（Assistant Language Teacher）の他、外国語指導助手のことを指す）を配置、各学級で英語活動を実施してきました。本校では今年度より、5、6年生で先行実施しています。私たちが職員も、「英語」5、6年生を使って指導係をつって子供たちの前に立てるよう月に1回以上の英語研修を積み重ねてきました。



【学習指導】
 本通しをもとに筋立てて考える力を育てる指導の
 大まかき流れをいし、通しを深めていく子供
 づいていきます。金銭教育が重要と定めた授業公開を受け
 研に同くつて研を定めています。職員室で研
 を参観し、協議会をも。学習指導が子供一人一人の
 のなつてつての。議を解決する見通しをもたせ
 のなつてつての。議を解決する見通しをもたせ
 され。議を解決する見通しをもたせ



（職員研修）
一人一人の専攻研究の成果と課題や、参加した研修会の
感想などをまとめた「研修 HOT NEWS」によって、職員
が共通課題を洗い、さらに研修を深めています。

[illegible]

「読書への意欲を高める活動」
 読書は読書好きで、図書館は読みたい本に出会えた
 供たちのキラキラとした眼で読まれています。読書を通
 て心を育んでいます。クラウスの絵画時間になっ
 てからアートバイスやおくえの本を聞き、夢中な
 でいます。気持ちよく読書室を利用できる
 ナーもあわせて学習しています。

※さらに詳しい資料をホームページにて公開しておりますので、ご覧ください。

<http://www.hamedehighway.city.milgate.edu/>

4. 学校CMSを活用しての学校評価の実施

6

• 学校評価結果の公開

保護者アンケートの結果ならびにそれを受けて行った学校評価の最終まとめを学校ウェブサイトで公表した。

🌂 4 中間評価を受けての校長の働き掛け

- 国語・算数における基礎学力は、「基礎学力の手引き」の見直しにより、重点化して取り組んできている成果は見られる。授業での継続的な取組はもとより、今後は家庭学習の内容や取組方法についても各学年で工夫・改善するように働き掛けていく。また、職員の学校評価を受けて、学習の基本となる諸事項について、全校体制で取り組む事項を洗い出し、指導の徹底を図るように働き掛ける。
- 校内研修については、授業研究後すぐに研推からたよりが発行され、成果や課題が明確に示され、職員の共通理解が図られてきている。今後も、授業研究を計画的に進め、職員の授業力の向上に向け指導していく。
- 図書館部が中心となって、児童が読書に親しむ環境づくり・取組を行っているので、今後は読書量だけでなく、内容面の充実にも働き掛けていく。

5. 学校評価に学校CMSを活用することのメリット

今回の実践を通じて、学校CMSを活用し、学校ウェブサイトへ蓄積された日常的学校情報を学校評価に活用することによって、以下のようなメリットがあることが確認できた。学校評価は、学校の教育目標と対応づけられた教員や関係者による日々の情報発信と連携させることにより、より実効性の高いものとなると言える。

(1) 具体的な活動とその根拠情報に基づく評価

- 自己評価ならびに保護者アンケートを実施する際に、教育目標と対応づけられた日常の具体的な活動記録をもとに評価を行うことができるようになった。

(2) 教育活動の中間評価と改善

- 年度の途中においても、教員が教育目標に対して、情報発信が不十分な分野等を確認することができるようになった。それによって、年度の途中においても、目標達成のための教育活動改善を意識するようになった。

(3) 教育目標と学校評価に対する意識の高まり

- 教員が記事を投稿する度に、キーワードをつけることにより、日々の教育実践と教育目標との関連性を教員が意識するようになった。また、それを通じて、教員が日々の教育実践についての具体的なゴールを意識するようになった。

豊福晋平(2008)
学校サイトに適したハイブリッド型CMSの開発,
日本教育工学会研究報告集

豊福晋平(2009)
説得段階の学校広報における情報再編集・要約機能,
日本教育工学研究報告集

中島進・豊福晋平(2009)
学校評価を前提とした学校ホームページの情報提供方策,
日本教育工学研究報告集

※本研究は平成21年度, 文部科学省からの委託により実施された「学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究(テーマB-2: 学校関係者評価委員に対する情報提供に係る調査研究)」の一部である。